

特別支援教員が抱える困難と求められる専門性

本論文の目的は、特別支援教員が抱える困難と求められる専門性を先行研究や文献、特別支援教員へのヒアリング調査結果から明らかにし、特別支援教員がより効果的な教育支援を提供できるための必要な支援を考察することである。

特別支援教員が抱える困難については、教員不足による負担の増加、児童生徒の多様なニーズへの対応、政府の教育政策による縛り、教員同士の人間関係等が含まれる。

これまでの特殊教育は、障害の種類や程度に対応して教育の場を整備し、そこできめ細かな教育を効果的に行うという視点で展開されてきた。学校教育法の改正により、これまでの特殊教育が特別支援教育へと転換し、これに伴って、5つの障害種別（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に分かれていたものが、特別支援学校という枠組みに統一され、複数の障害に対応した教育も行うことができるようになった。特別な支援を必要とする児童生徒は、今後増えつつあり、障害の重度化・重複化とともに、LD・ADHD・高機能自閉症などの発達障害への対応も求められている。そして、それは特別支援学校だけで受け止めるのではなく、その生徒が居住する地域の学校の通常学級や特別支援学級も含めて、身近な場で教育を受けられるように考慮し、その際に特別支援学校がセンター的機能を発揮することが求められている。

特別支援学校・学級が抱える問題として教室不足、教員不足等が挙げられるが、第2章では、特別支援教育に関わる教員の専門性の低下について、主として述べた。特別支援の教員は、通常学級の教諭免許状を基礎として、特別支援学校教諭免許状を保有することが必要である。支援が提供される場面は様々で、多様な状態を示す児童生徒の障害に応じた指導ができる幅広い知識、技能、専門的な見解、判断力等が専門性として求められる。しかし、現状は教員不足や支援を受ける児童生徒の増加により特別支援学校教諭免許状を保有していない教員が指導を行なっているケースが多数であり、専門性が欠如している状態である。

第3章では、2名の特別支援教員に行ったヒアリング調査についてである。特別支援教員が抱える業務上の困難や課題を聞き、どのように専門性を向上させてきたのか、専門性の向上に向けてどのような課題があり、どういった支援や体制が必要であるか等を聞いた。

第4章では、ヒアリングの結果からみえた考察を述べている。特別支援教育における専門性の向上に向けた取り組みとして「研修や講演会の参加」「書籍やインターネットからの情報収集」が対象者の共通項目として挙げられた。興味関心のあることに対して自主的に参加・調べるといった行動が専門性の向上につながっているということがわかった。

教育現場や政策のレベルでの取り組みも重要ではあるが、まずは個々の教員や関係者の意識や努力も不可欠である。特別支援教育の専門性を向上させるために、継続的な取り組みが求められている。